

東通小学校4年生 村内農園で摘み取り体験！

7月11日、13日に東通小学校4年生が東通科の一環で、村内農園を訪れました。村の特産について学んだ後は、摘み取りを体験しました。

新型コロナウイルス感染症・熱中症対策を行ったうえで訪れた先は、『夏秋いちご農家・濱田農園』(※1)、『ブルーベリー農家・奥島農園』(※2)です。

※1 濱田農園：濱田裕子さん(東栄地区)

※2 奥島農園：奥島一志さん(大利地区)



濱田さんから、夏秋いちごについて説明を受けました。

11日に訪れた濱田農園では、農園主の濱田裕子さんから夏秋いちご講義を受けました。子どもたちからは様々な質問が投げかけられ、ひとつひとつ丁寧に答えていました。その後の摘み取り体験では、完熟夏秋いちごの甘さにビックリ！思わず歓声上がるほどでした。

13日に訪れた奥島農園では、700本近くのブルーベリーを栽培しており、その広い敷地内では、都市部との交流事業で植樹した浮間小学校の苗も立派に育っています。

ブルーベリーを食べた児童たちは「すっぱい！これ甘い！」と楽しい声が響き渡っていました。



お土産として山ブルーベリーを収穫しました！

漁獲量の増大を目指しサクラマス稚魚10万尾放流 ～サクラマス稚魚放流式～



6月23日、村水産振興推進協議会(畑中稔朗会長)主催により、老部川内水面人工河川において、サクラマス稚魚放流式が行われ、あいにくの雨模様となりましたが、平均体長約7.0cm、体重4.5gの稚魚3千尾が村内漁業協同組合長、下北地方水産事務所、東北・東京電力など関係者約30名の手により放流されました。

また、6月13日及び当日に小老部川、野牛川、老部川へ計9万7千尾を放流しており、今期は合計で10万尾の放流を実施しました。

今年で24回目となるこの放流事業はサクラマス漁獲量の増大を目的に行っている事業であり、村としても「つくり育てる漁業」の重要な魚種として、今後も資源の増大を図っていきたいと考えています。

坂本 素雪さん 村に対し“書”を寄贈

6月19日、村は書道家でむつ市内の書道教室(素雪書院)を営む坂本素雪(そせつ)さんから書を寄贈いただきました。

こちらの書は、2013年の作品で『きらめく全国「半島と岬」の詩』に掲載されている「竜飛岬」という作品の「海に墜ちた太陽が炎を噴きあげて燃えつきるときの一瞬の蒼茫」という詩文と書にしたもの。

慌ただしく生活していると、ふと自然が恋しくなる。自然に活かされている一コマを、この詩文と書で表現したものだということでした。

